

# 日本のルーツはシュメールなのか

中3-A-15 下川原 知則

はじめに

第一章 シュメールとは

第二章 シュメールと日本の不思議な共通点

第一節 神話

第二節 顔の特徴

第三節 模様

第四節 言語

第五節 語族

第三章 考察

第一節 神話

第二節 顔の特徴

第三節 模様

第四節 言語

第五節 語族

第四章 結果

第一節 神話

第二節 顔の特徴

第三節 模様

第四節 言語

第五節 語族

終わりに

## はじめに

今回、このテーマを調べようと思ったきっかけは、小学校の歴史の先生が、授業中、日本人の起源はシュメール人達かもしれないと言っていたからだ。小学校のころの僕は専門的な知識は何ももっていなかったけれど、先生の話がとても面白く感じた。そもそもシュメールって何？それがまず出てきた疑問だった。先生は、世界最古の文明だと教えてくれ、他にも何か言っていた気もするが知らない単語ばかりで分からなかった。しかし、共通点について説明してくれた内容は覚えていた。先生は昔話などを通してわかりやすく説明してくれた。三種の神器のことや、天体などだ。僕はもともと歴史が好きだったので興味を持ち資料集などを读んだりしていたがシュメール民族について詳しく書かれているものはなかった。だから、いつか調べる機会があれば謎をはっきりさせたいと思っていたので今回調べることにした。

## 第一章 シュメールとは

シュメールとは古代文明の名前であり、その文明を築いた人々の民族名、またその文明が栄えた地域の名前だ。シュメール地方とは紀元前 3500 年頃-紀元前 525 年頃に栄えた文明があった地域であり、メソポタミア（現在のイラク・クウェート）南部を占めるバビロニア(チグリス川とユーフラテス川の下流)の半分の地域のことだ。そこで栄えた文明をシュメール文明といい、そこに住んでいた人たちのことをシュメール人と呼んでいる。シュメール文明は現在見つかった中で最古の文明である。また、それぞれの都市でそれぞれが王を決めていたことから、世界最古の都市国家ともいえる。

そもそも都市国家とは、一つの都市とその周辺地域が、独立した政体や文明として一つとなり、まとまった形態をなす小国家のことだ。



シュメール人の都市国家の特徴を指摘する。

まず円形の城壁で囲まれている。次に城壁のなかに農村がありその中心に神殿がある。

ウルク、ウル、ラガシュ(都市国家の名前)

などの都市にはジググラト(神塔)があり、都市ごとに違う神が祭られていた。各都市はそれぞれ独立した政治権力を形成し、互いに覇権



当時は、楔形文字(粘土板に葦の茎で模様をつけて書かれていた)を使い読み書きしていたこともわかっている。また学校が開かれているところもあった。

シュメールは天文学が非常に発達しており太陽を中心に 9 個の星があることを発見していた。また、すでに太陰暦が使われており、その暦は現代でも使われている。他にも、7 曜制、60 進法が使われていたことが知られている。このように、シュメール文明は、最初にしてかなり高度な文明であったことがわかる。

## 第二章 シュメールと日本の不思議な共通点

第二章では、これまでの研究の中でその「シュメールと日本の共通点」として指摘されているものについて紹介する。それらについての考察は、次の章で行う。

### 第一節 神話

シュメール人には、こんな物語がある。

「七つの首を持った大きな竜がいた。その竜の名前は、「ムシュマツヘ」。そして、ムシュマツヘを倒して武神の剣を手に入れた。」

ムシュマツヘとは、巨大な蛇という意味だそうだ。その剣は、シュメールの三種の神器の一つだ。

これとよく似た神話をどこかで聞いたことはないだろうか。そう、日本の「八岐大蛇」の話とかなり似ている。神話では八岐大蛇を倒した際にその尾を切り落として草薙の剣を手に入れた。「大蛇」というのは、巨大な蛇という意味だ。これは、シュメール神話の「ムシュマツヘ」と酷似している。それだけでなくこちらにも三種の神器のうちの一つだ。さらに面白いことに、日本の三種の神器は、草薙の剣、八咫鏡、八尺瓊勾玉だが、シュメールにおける

三種の神器は、武神の剣、日像鏡、月像の首飾りだ。剣、鏡、勾玉という点に関してはあまりにも酷似している。

三種の神器というのは、日本では象徴とされる天皇の正当性を表すものだ。また、三種の神器はご神体としてまつられているものもあり、伊勢神宮では八咫瓊勾玉、熱田神宮では草薙の剣が祭られている。また、シュメールでは神の存在を表すものとして使われていた。これは、日本のご神体と酷似した使われ方だ。

## 第二節 顔の特徴

今までいろいろな発掘の中で、シュメール人が土などを焼いて作った人物像（以下、像とする）が多く発掘されている。その像の中で人の形をした物は、すべて彫が深く目が大きいという特徴がある。

今の日本人の顔は、あっさりした顔だと思われがちだが沖縄や、鹿児島地方の人たちは彫が深く、目がくっきりしており、ひげなどの体毛も濃い。



### 第三節 模様

次は模様だ。日本の天皇家の紋をご存知だろうか。そう、十六菊家紋だ。それとかなり似ている物がシュメールから発掘された。それは、シュメールが最も栄えたとされるウル第3王朝を滅ぼした古バビロニア王国が、その後の権力争いにより4つに分裂したうちのの一つである新バビロニアの王、ネブカド・ネゼル2世が築いたバビロンのイシュタル門の両壁



にある。その壁にはライオンの像が多数描かれ、その周囲には、日本の皇室の紋章に酷似した十六菊花紋の様な紋があしらわれている。シュメールではこの菊花紋を最高神アンのシンボルとして祀っている都市もあった。というのも、シュメール全体ではギリシャのように最高神を統一していたのかということがわからない。ほかにも菊花紋は、メソポタミアやエジプト周辺で神や王家の紋章として使われていた。

以前、こんなことがあった。

かつてのイラク大統領サダム・フセインが、バグダッドの官邸で記者会見を開いた時、十六菊花紋の様な紋がデザインされた腕輪をしていた。それを見たヨーロッパのある記者が質問した。

「日本の皇室のものとよく似ていますが、何か関係があるのですか？」

すると、大統領は

「もっと古代メソポタミアのことを勉強してほしいですね。

この紋章は、世界最古の文明を築いた私たちの祖先、シュメール王朝時代の王族の紋章です。」

と答えたそうだ。

### 第四節 言語

シュメール語は、日本の古語で解釈することができるという。その例をいくつか挙げてみよう。例えば、日本の古語で天皇や皇族のことを「スメ(皇)」「スメラ(天皇)」という。それは、古代バビロニアの「Sumer (スメル又はシュメール)」の発音と似ている。「sumer」は神聖な、至高、といった意味だ。さらに、日本の古語「スメ」は、「神」という意味で、天皇＝神ということになり、スメル国というのは漢字で書くと「皇国」となり、「神の国」という意味にとらえることもできるだろう。ほかにも、「ミコト(尊、命)」や「ミカド(天皇)」は、シュメールの言葉「Migut (ミグト)」の転訛である。「Migut」とは、天降る開拓者という意味それはすなわち神を意味しているという。このことからかなり類似している点があると考えてもよいのではないか。

## 第五節 語族

日本語とシュメール語は、ともに言語の構造上「膠着語」に分類される。

膠着語を簡単に説明すると、「名詞や動詞に助語尾や助詞を付けて文節が構成され、それらがつながる形で文章をなす言語」ということになる。つまり、名詞や動詞に付く語尾や助詞によって文の意味が変わる言葉だ。日本語に「てにをは」があるように、シュメール語にも「てにをは」に当たる言葉があるというのだ。ちなみに膠着語は他にもトルコ語、モンゴル語、満州語、朝鮮語、フィンランド語などがある。

また、語学上シュメール語は、ウラル＝アルタイ語族に分類されていた。日本語もウラル＝アルタイ語族に入っていたが、現在は外されている。

ウラル＝アルタイ語族について説明する。まず、ウラル語族とはフィンランド語、エストニア語、ハンガリー語などが属している語族である。おもにヨーロッパ地域に分布しているが、これらの言語を用いた民族がアジアから移動してヨーロッパに入った人たちであり、そのため俗に「アジア系言語」と言われている。次にアルタイ語族は、トルコ語や中央アジアの諸言語、モンゴル語などが属している語族だ。かつては、ウラル＝アルタイ語族とされていたが、今は日本語、朝鮮語、双方ともに、ウラル＝アルタイ語族から外され、所属する語族は不明とされている。

## 第三章 考察

### 第一節 神話、三種の神器

僕は神話が、そっくりそのままシュメールから日本に伝えられているのではなく、7つの首が8つの首になっていたりする点から、口頭で話が伝えられていったのではないかと考えた。また、何のためにそのような神話が作られたのかを知るために、そもそも三種の神器というものは、どうやって生まれて、どのようにして決まったのかを調べる必要があると考えた。

### 第二節 顔の特徴

顔の特徴としてはシュメールの残した像は彫が深く目が大きいという特徴を持ち、これが鹿児島、沖縄の人と似ているという指摘についてあるが、日本の土偶のように、像だから強調されている部分はあると考えた。しかしシュメールの像が、シュメール人の顔の特徴をとらえているという点においては概ね間違っていないだろうと思われる。また、シュメール人の顔が大陸のほうに近い九州や沖縄の人の顔の特徴と似ているのにも納得できる。日本人は北方弥生系 7～8 割、南方縄文系 2～3 割の比率で混血しているといわれている。のちに弥生

人と呼ばれる日本に渡ってきた人たちが大陸から北九州に入り、東に行ったと考えると、当時の日本の人たちだけ弥生顔の特徴を持ち、当時日本ではなかった蝦夷（北海道）、琉球王国（沖縄）には伝わらなかったと考えることができる。そのため今の日本人は、弥生顔のイメージが強いと思われているのではないだろうか。では、大陸からシュメールの人たちが日本に来たとすれば、どの時期にどこから来たのだろうか。

まず、どの時期に来たのかを考える。大きく考えられるのは弥生人が日本に渡ってきた時と、渡来人が多く来た4世紀から7世紀が中心的な時期とされる。そのなかには、何も文書が残っていない時期があるので仮に、稲作が日本に伝わってきたときに来たと考えてみよう。日本で一番古い稲作をしていた跡がある遺跡が最初に稲作が伝わってきた場所だと考える。日本で一番古いコメが存在していた農耕遺跡は、板付遺跡だ。土器の底についていた、もみ殻が発見されている。板付遺跡は北九州にあるため、北九州に渡ってきたと考える。

次にどこから人が渡ってきたのかを考えると二つの可能性が出てきた。一つ目は長江から直接来たという可能性だ。長江下流域にある河姆渡遺跡は、黄河文明と同じくらい古い農耕遺跡だ。また、「魏志倭人伝」には、顔に入れ墨があり、貫頭衣を身にまとい、水の中を泳ぐなど、当時の特徴が長江と似ていると書かれており、長江下流部の農耕文化を担った集団の中から、日本に移り住んだものがいたと推測される。しかし、その時の人々の墓の作り方を見てみると、支石墓という朝鮮半島の墓の作り方とかなり似ている。となると、長江から直接来たのではない可能性が高い。二つ目は朝鮮を経由したという可能性だ。そう考えると、長江から黄河を通り朝鮮から日本に来たと考えることができる。この時、黄河文明も稲作をしていたのではないかと考えた。しかし中国には淮河という川がある。淮河よりも北側は小麦などの栽培に適しており、南側は稲作に適しているため先に長江で稲作文化が広まったといえる。よって、長江から黄河に伝わり、そして朝鮮を経由して日本に来たと考えた。そして稲作とともに大陸の複数の場所から移り住んだ人がおり、同時に移り住んだ人達の文化も日本に伝わってきたと考えられる。

## 第二節 模様

模様だが、天皇家の紋はシュメール王族の紋章ではなく、ほかの意味があると考えた。自分はこの紋は、太陽を表していると考えた。なぜなら日本には、太陽神天照大御神がいるからだ。また、海外を見てもヨーロッパ、インド、ラテンアメリカ、時代をさかのぼるとアステカ帝国、インカ帝国などの太陽神の絵も中心に丸がありそこから周りに線が伸びている。このことより、全世界で太陽の絵の描き方は、共通認識であり、太陽を表しているのではないかと考えた。

### 第三節 言語

ここまで似ている点があると、シュメールが日本人のルーツであると信じてしまいそうだが、日本でいう古語とは平安時代から戦国時代に使われた言葉のことである。となると、かなり時代が離れている。日本に伝わってきたのがその時期だとすれば、それまでどうやって会話をしていたのかがわからなくなる。見つかっていないだけで、日本独自の言葉「神大文字」などが栄えていたのか。しかしその可能性は何もよくわからない文字の文献が見つかっていないので低い。だから、この説は正しいとは言い切れないのではないかと考えた。

### 第四節 語族

シュメールと日本が膠着語を使っているのは事実だが、こんなに海で離れた所にどうやって伝わったのだろうか。シュメールが物凄く広大な帝国になって日本を手中に収めていたとしたら話は別だがシュメールは栄えた後、滅ぼされてしまう。大体の場合、先進技術などは継承されたとしても、言語などは占領した側の方に合わせられてしまうはずだ。だから、滅ぼされて行き場を失ったシュメール人たちがバラバラにな

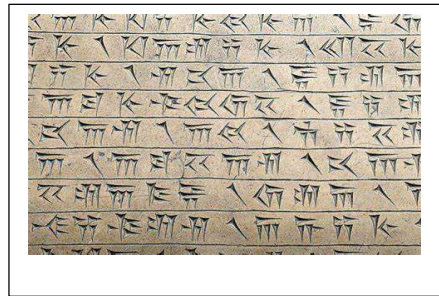


なったうちの一つが日本にたどり着いた可能性もありうるとは考えたが、他の要因から否定しうると判断している。詳しくは第五節で触れることとする。上の地図の赤い部分を見てほしい。これは、ウラル＝アルタイ語族が使われている地域だ。この地域はシュメールからモンゴルなどの範囲を網羅している。よってこの地域を西から東に移動していったと考えた。また、シュメールは一度滅ぼされ、それからもう一度文明が栄えている。だから、どちらのタイミングで伝わってきたのか、もしくは貿易などを行っている、文明が栄えているときに伝わってきたのかがわからない。それにどの経路を伝って日本まで来たのか。陸から来たのだとすれば途中にシュメール人の遺跡などが残っているはずだ。そうした遺跡が発見されていない以上シュメールが陸から来たとは考えられない。

## 第四章 結果

### 第一節 神話、三種の神器

調べてみると、シュメールに残されていた神話には、ノアの箱舟など多くの話があった。これがなぜ現在にまで伝わったのかというと、シュメールは楔形文字を発明していたからだ。楔形文字とは、粘土板に葦の茎を押し付け、その押し付けられた形の組み合わせを作り、その決まった組み合わせを文字としていたものだ。楔形文字はシュメール語が死語となった後もメソポタミアに興元した王朝により受け継がれ長く残り続ける。具体的には、アッカド帝国がシュメールの国家を征服した後、アッカド人は楔形文字を使い始め、そのアッカド帝国が広くメソポタミアを支配した結果、楔形文字はメソポタミア全域で用いられるようになり、最終的には紀元前4世紀まで存在したアケメネス朝ペルシアの時代まで使用され続けた。



しかし、調べてみると、ヤマタノオロチ伝説に似たような話は、世界中にたくさんあった。ギリシャ神話でも似たような話が見ついている。シュメールからギリシャに伝わり、そこから中国を経て日本に伝わってきたと考えられないこともない。しかし、中国では龍退治の神話はいくつもあるが、ヤマタノオロチ伝説の特徴の一つでもある、複数の頭を持つ龍が出てくる神話は見つからない。違うところを経由して伝わっているという可能性もあるので神話が日本とシュメールの共通点と言えないとは断言できない。

### 第二節 顔の特徴

シュメール人の顔は、彫が深く、濃い顔という特徴を持っていたことは間違いないようだが日本人と顔が似ているとはとてもではないが言いにくい。なぜなら、日本人の大半は弥生顔であるからだ。逆に弥生時代のひとつ前の縄文時代の人の顔ととても似ているという。ならば、シュメールが日本に来たのは弥生人の来る前であることがわかる。しかし、シュメール文明があったのは氷河期が終わってから約5000年後のことである。縄文時代は氷河期の終わり（11700年前頃）からなのでシュメール文明が興廃する時期と全く関係ないので顔の特徴は、関係ないと考えた。

### 第三節 模様

菊の紋は、後鳥羽上皇が菊の花をととても好んでおり身の回りのものに菊のご紋をつけていたのが始まりとされる。古くから紋章として多く使用された花は蓮華（ハス）で、飛鳥寺を

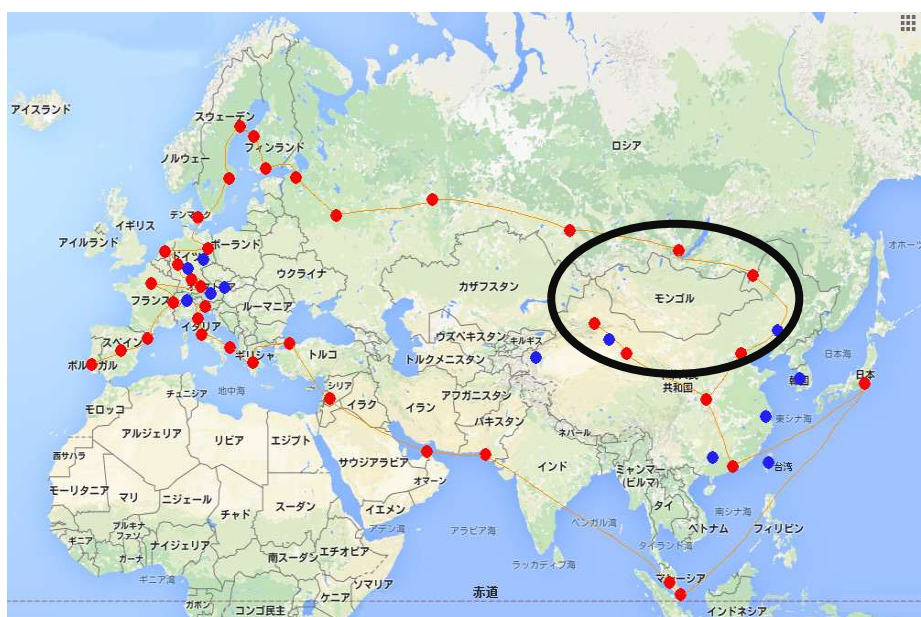
始め飛鳥時代の各地の遺跡から様々なデザインの蓮華文軒丸瓦の出土がある。フセイン大統領の話や、バビロンにあるイシュタル門のマーク、インドのアショーカ王の鉄柱にかなり似たようなマークが刻まれている。しかし、日本は天皇の紋章は菊を好んでいたというのが理由なので、それらとのつながりは考えられない。

#### 第四節 言語

言語の部分では、かなり似ているところがあるというのは事実だ。しかし、見つかった文献がかなり少ないということもあり、日本の古語＝シュメール語となるのは、かなり厳しい。ではどうすればよいのかと考えたときに、似たような言葉が使われている地域が、日本とシュメール地方の間に複数あれば伝わってきたことを証明できるのではないかと考えたが、それは次の語族のところと共通する部分があったので、次の語族のところにかきたいと思う。

#### 第五節 語族

今の日本語は、「膠着語」であるがどこの語族にも属していない。なぜなら、言語同士が組み合わさって一つの言語となっているからだ。なので、膠着語を使っている地域から調べていくことにした。調べてみると、朝鮮語、モンゴル諸語、満州語等のツングース諸語、日本語、フィンランド語、ハンガリー語等のウラル語族、トルコ語、ウイグル語、ウズベク語、カザフ語等のテュルク諸語、のアルタイ語族、それ以外のタミル語等のドラヴィダ語族、チベット・ビルマ語派、エラム語、シュメール語、ハッティ語、フルリ語、ウラルトゥ語等の古代語などが膠着語であるということが分かった。この中から日本に近いのは、モンゴル語、チベット語のあたりだ。



よって、日本語はモンゴル周辺から伝わってきたのではないかと考えた。考えられる経路と

しては、シュメール地方から、カザフスタン、ウズベキスタンなどを通りモンゴルまでから朝鮮を通して伝わってきたと考えるとかなり現実味がある。

## 終わりに

今回の課題研究では、シュメールのことについて調べたが、小学校の頃よりは、かなり知識も増え、単純に面白いという感覚から興味深いといったような面白さに変っていったことが実感できた。しかし、かなり昔の時代であるだけに文献が非常に少ないなど、ネットを活用しても考察記事のようなものばかりで本当に事実なのかわからないのもあり、あいまいな表現が多くなってしまった。今後は言語の方面からだけでなく、違うところからこの謎を解明していけたらいいなという風に思った。たとえば、非常に発達していた天体の分野や、宗教関連、一度滅びた後どのようにしてまた栄えたのかなど……。

最後になりましたが、今回僕の課題研究に力を貸してくださった米山先生、本当にありがとうございました。

## 参考文献

- ・『シュメールー人類最古の文明』 小林登志子 中公新書
- ・『5000年前の日常ーシュメール人たちの物語』 小林登志子 新潮選書
- ・Wikipedia フリー百科事典 「シュメール」

[https://www.bing.com/ck/a?!&&p=9aad977438f559c4JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTQ0OTQ0MjY0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTQ5MA&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=9aad977438f559c4JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTQ0OTQ0MjY0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTQ5MA&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly9qYS53aWtpcGVkaWEub3JnL3dpa2kvJUuzJTgyJUI3JUuzJTgzJUE1JUuzJTgzJUExJUuzJTgzJUzJUuzJTgzJUFC&ntb=1)

[34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly9qYS53aWtpcGVkaWEub3JnL3dpa2kvJUuzJTgyJUI3JUuzJTgzJUE1JUuzJTgzJUExJUuzJTgzJUzJUuzJTgzJUFC&ntb=1](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=9aad977438f559c4JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTQ0OTQ0MjY0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTQ5MA&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly9qYS53aWtpcGVkaWEub3JnL3dpa2kvJUuzJTgyJUI3JUuzJTgzJUE1JUuzJTgzJUExJUuzJTgzJUzJUuzJTgzJUFC&ntb=1)

- ・世界雑学ノート 「シュメール人や文明の特徴や謎」

[https://www.bing.com/ck/a?!&&p=ac66f139a9b6ba77JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTQ0OTQ0MjY0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTI3NA&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=ac66f139a9b6ba77JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTQ0OTQ0MjY0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTI3NA&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly93b3JsZC1ub3RILmNvbS9zdW1lcmhbi1wZW9wbGUtY2l2aWxpemF0aW9uLW15c3Rlcmllcy8&ntb=1)

[34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly93b3JsZC1ub3RILmNvbS9zdW1lcmhbi1wZW9wbGUtY2l2aWxpemF0aW9uLW15c3Rlcmllcy8&ntb=1](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=ac66f139a9b6ba77JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTQ0OTQ0MjY0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTI3NA&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly93b3JsZC1ub3RILmNvbS9zdW1lcmhbi1wZW9wbGUtY2l2aWxpemF0aW9uLW15c3Rlcmllcy8&ntb=1)

## 世界史の窓 「シュメール人」

[https://www.bing.com/ck/a?!&&p=77dad6fc6867b1eaJmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTMwMQ&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=77dad6fc6867b1eaJmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTMwMQ&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly93d3cueS1oaXN0b3J5Lm5ldC9hcHB1bmRpeC93aDAxMDEtMDA5Lmh0bWw&ntb=1)

[34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly93d3cueS1oaXN0b3J5Lm5ldC9hcHB1bmRpeC93aDAxMDEtMDA5Lmh0bWw&ntb=1](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=77dad6fc6867b1eaJmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTMwMQ&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly93d3cueS1oaXN0b3J5Lm5ldC9hcHB1bmRpeC93aDAxMDEtMDA5Lmh0bWw&ntb=1)

- Newsphere 『シュメール人とは？その文明と「日本人のルーツ」の謎に迫る』

[https://www.bing.com/ck/a?!&&p=bf7891fe160fdb6JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTMyNg&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=bf7891fe160fdb6JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTMyNg&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly9uZXZzcGhlcmUuanAvbmF0aW9uYWwvc3VtZXJpYW4tamFwYW5lc2Uv&ntb=1)

[34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly9uZXZzcGhlcmUuanAvbmF0aW9uYWwvc3VtZXJpYW4tamFwYW5lc2Uv&ntb=1](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=bf7891fe160fdb6JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTMyNg&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e4%ba%ba&u=a1aHR0cHM6Ly9uZXZzcGhlcmUuanAvbmF0aW9uYWwvc3VtZXJpYW4tamFwYW5lc2Uv&ntb=1)

- 「世界の不思議」

「ヤマトノオロチ伝説とシュメール神話の意外なつながりに驚愕！」

[https://www.bing.com/ck/a?!&&p=ba198fcbf7564171JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTE5Nw&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=ba198fcbf7564171JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTE5Nw&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e3%80%80%e3%83%a4%e3%83%9e%e3%82%bf%e3%83%8e%e3%82%aa%e3%83%ad%e3%83%81&u=a1aHR0cHM6Ly94bi0tdTlqdDUwZ3phNjc1cHdneTAwMWEubmV0LzQ0NTkuaHRtbA&ntb=1)

[34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e3%80%80%e3%83%a4%e3%83%9e%e3%82%bf%e3%83%8e%e3%82%aa%e3%83%ad%e3%83%81&u=a1aHR0cHM6Ly94bi0tdTlqdDUwZ3phNjc1cHdneTAwMWEubmV0LzQ0NTkuaHRtbA&ntb=1](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=ba198fcbf7564171JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTE5Nw&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%b7%e3%83%a5%e3%83%a1%e3%83%bc%e3%83%ab%e3%80%80%e3%83%a4%e3%83%9e%e3%82%bf%e3%83%8e%e3%82%aa%e3%83%ad%e3%83%81&u=a1aHR0cHM6Ly94bi0tdTlqdDUwZ3phNjc1cHdneTAwMWEubmV0LzQ0NTkuaHRtbA&ntb=1)

- 神仏ネット 「三種の神器とは 勾玉/鏡/剣に秘められた意味や現在本物のある場所等解説」

[https://shinto-](https://shinto-bukkyo.net/shinto/%E7%A5%9E%E9%81%93%E3%81%AE%E7%9F%A5%E8%AD%98%E3%83%BB%E4%BD%9C%E6%B3%95/%E4%B8%89%E7%A8%AE%E3%81%AE%E7%A5%9E%E5%99%A8/)

[bukkyo.net/shinto/%E7%A5%9E%E9%81%93%E3%81%AE%E7%9F%A5%E8%AD%98%E3%83%BB%E4%BD%9C%E6%B3%95/%E4%B8%89%E7%A8%AE%E3%81%AE%E7%A5%9E%E5%99%A8/](https://shinto-bukkyo.net/shinto/%E7%A5%9E%E9%81%93%E3%81%AE%E7%9F%A5%E8%AD%98%E3%83%BB%E4%BD%9C%E6%B3%95/%E4%B8%89%E7%A8%AE%E3%81%AE%E7%A5%9E%E5%99%A8/)

- Wikipedia フリー百科事典 「語族」

[https://www.bing.com/ck/a?!&&p=d31c9cf269202e24JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTIxMA&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=d31c9cf269202e24JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTIxMA&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e8%aa%9e%e6%97%8f&u=a1aHR0cHM6Ly9qYS53aWtpcGVkaWEub3JnL3dpa2kvJUU4JUFBJTIFJU2JTk3JThG&ntb=1)

[34cd3fc369a6&psq=%e8%aa%9e%e6%97%8f&u=a1aHR0cHM6Ly9qYS53aWtpcGVkaWEub3JnL3dpa2kvJUU4JUFBJTIFJU2JTk3JThG&ntb=1](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=d31c9cf269202e24JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTIxMA&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e8%aa%9e%e6%97%8f&u=a1aHR0cHM6Ly9qYS53aWtpcGVkaWEub3JnL3dpa2kvJUU4JUFBJTIFJU2JTk3JThG&ntb=1)

- Wikipedia フリー百科事典 「ウラル＝アルタイ語族」

[https://www.bing.com/ck/a?!&&p=e23ac2f11bb6a5f5JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTI0Mw&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=e23ac2f11bb6a5f5JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTI0Mw&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%a2%e3%83%ab%e3%82%bf%e3%82%a4%e8%aa%9e%e6%97%8f&u=a1aHR0cHM6Ly9qYS53aWtpcGVkaWEub3JnL3dpa2kvJU2JTk3JThG&ntb=1)

[34cd3fc369a6&psq=%e3%82%a2%e3%83%ab%e3%82%bf%e3%82%a4%e8%aa%9e%e6%97%8f&u=a1aHR0cHM6Ly9qYS53aWtpcGVkaWEub3JnL3dpa2kvJU2JTk3JThG&ntb=1](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=e23ac2f11bb6a5f5JmltdHM9MTcwODczMjgwMCZpZ3VpZD0zYzczMjc5Mi0zZTEzLTY4OTQzMWQ2Yi0zNGNkM2ZjMzY5YTYmaW5zaWQ9NTI0Mw&ptn=3&ver=2&hsh=3&fclid=3c732792-3e11-6894-1d6b-34cd3fc369a6&psq=%e3%82%a2%e3%83%ab%e3%82%bf%e3%82%a4%e8%aa%9e%e6%97%8f&u=a1aHR0cHM6Ly9qYS53aWtpcGVkaWEub3JnL3dpa2kvJU2JTk3JThG&ntb=1)